1　研究主題

思いや考えを聴き合い，話し合い
学ぶことを楽しむ子どもたちに
～つなぎ　つながり　学び合う授業づくりを～

本校では，児童が自分の世界を広げたり，新しい学習との出会いによって生まれた疑問や発見を仲間との対話を通して追求し，自分の中に取り込んでいったりすることを「学び」と考え，「聴き合う」こと，「話し合う」こと，「学ぶことを楽しむ」ことを以下のように定義する。

聴き合う・・・相手の立場や考えを尊重しながら聞き，言葉を通して正確に理解すること。
話し合う・・・相手の思いや考えを受け止めて聞き，感想を述べたり質問をしたりする。さらに，お互いの意見を取り入れて比較検討をすること。
学ぶことを楽しむ・・・聴き合い，話し合いを通して，自分の考えの良さや新しいものの見方や考え方に気付き，自分の考えを広げ深めること。

児童が「知りたい」「わかりたい」と思えるような学習を提示して児童と学習をつなぎ，様々な学習活動を通して自己や他者，素材との対話（やりとり）を通して学んでいくことこそが「学び」に繋がっていくと考えられる。新たな学びのために学校では，対話する場（他者の考えに触れる場）を提供する必要がある。他者との聴き合い，話し合いをすることで，互いの考えの良さに気付いたり，学ぶことが楽しくなったりすると考える。

2　主題設定の理由

（1）　学習指導要領から

新しい学習指導要領が目指す資質・能力の明確化がうち出され，「生きる力」が改めて重要であると明示されている。児童が能動的に学び続けることができるようにするには，学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが必要であり，「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）を推進することが求められている。

また，学習の基盤となる資質・能力として，言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等が挙げられている。その中でも，主体的・対話的で深い学びのために言語能力は，児童の学習活動を支える重要な役割を果たすものである。さらに，言語能力は全ての教科等における資質・能力の育成や学習基盤となるものであるといえ，直接言葉を扱い学習する国語科は特に重要だと考える。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて，友達と聴き合い，話し合う活動は自分の考えをまとめたり，他者の思いを受け止めたりすることが必須である。話し合うことを通しそのような力を付けることで全ての学習において児童の学びの質の向上につながるだろう。さらに互いの思いや考えを聴き合うことで，自分や相手の考えのよさに気付き，話し合うことで，ものの見方が広がり，学ぶ楽しさを味わうことができるようになるのである。以上より，思いや考えを聴き合い，話し合う活動は児童の学習の

基盤となる力を伸ばし，学ぶ楽しさにつながり，最終的に学習指導要領で求められる「生きる力」を培うことができると考える。

（２） 学校教育目標から

本校の教育目標は以下のとおりである。

『人間性豊かな　考え行動できる　心身ともにたくましい子どもの育成』
―自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子―

そして，「考え行動できる子」を育成するために，以下のような手立てをとっている。

「確かな学力」の具現化のために
- ○学習習慣の定着・・・学習の規律の徹底
- ○基礎学力の定着・・・ドリルタイムの活用，家庭学習の習慣化（家庭学習の手引き）
- ○話し合い活動の充実・・・主体的・対話的で深い学び
- ○読書の習慣化・・・読書タイムの充実，定期的な読み聞かせ
- ○ねらいを明確にした課題解決学習，探究的な活動の実践・・・自ら考え，判断し，解決できる力

「確かな学力」を身に付けるためには，児童が学ぶことに楽しさを見いだし，主体的に学びに向かうことが不可欠である。「分かる」と実感したり，自分の考えや意見を受け入れてもらったりしたとき，児童は学ぶことに楽しさを見いだし，さらに学びたいという意欲をもつだろう。話し合い活動を中心とした思いや考えの聴き合い，学び合いの活動を積み重ねていくことで，確かな学力が身に付き，学校教育目標で示す「考え行動できる」児童を育てることに繋がると考える。

（３）児童の実態から

本校の千葉県標準学力検査の国語「話すこと・聞くこと」分野の正答率を見ると，以下のような結果となった。

○令和２年度					
１年生	７８％	（７６％）	４年生	８６％	（８０％）
２年生	８４％	（８５％）	５年生	７７％	（７０％）
３年生	８０％	（７８％）	６年生	８４％	（８０％）
○令和３年度					
１年生	７３％	（７５％）	４年生	８５％	（８０％）
２年生	８６％	（８３％）	５年生	７４％	（７１％）
３年生	８０％	（７７％）	６年生	８０％	（８１％）

※（　）は県平均

結果を見ると，比較的正答率は高く，「話すこと・聞くこと」分野は身に付いている児童が多い。しかし，児童の実態を見ると，「話し方が分からない」「人前で話すことが苦手」「間違える

ことが怖い」「話の要点をつかむことが苦手」のように，話すことへの抵抗感や，聞くことへの不安感を抱えている児童が少なくないことが分かった。また，本校のように大規模校であると，大勢の前で発表する機会は限られる上に，自分が発表しなくても話し合いが成立してしまうこともあるため，どうしても受け身で参加する児童が多いのが実態である。そこで，少人数での話し合いを大切にし，グループ内で考えを出し合い，互いの考えを尊重して聴くようになれば学びを楽しめるのではないかと考えた。低学年のうちから話す機会を多く設け，話すことに慣れさせ，相手に伝わる話し方の指導をしていくことで，話すことへの抵抗感を軽減させていくことが重要である。また，話し手が話しやすいような，温かい雰囲気づくりのための聞き手への指導も併せて行っていくことで，その指導の効果をさらに高めていけると考える。

3　研究仮説について

本校では，国語科で目指す児童像を

低学年・・・	感想をもちながら聞き，相手の発言を受けて意見や感想をつなぐことができる子
中学年・・・	必要なことを質問しながら聞き，互いの意見の共通点や相違点に着目して話し合い，自分の考えを選択してまとめることができる子
高学年・・・	自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞き，立場や意図を明確にして話し合い，様々な視点から自分の考えを広げることができる子

とし，このような児童を育成していくために，以下のように研究仮説を設定した。

【仮説１】

児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定し，単元計画を工夫することで，主体的に話し合うようになるだろう。

児童が思いや考えを伝え合うためには，興味関心のある活動を設定することが大切である。学ぶことに興味関心をもって取り組むことで，必然的に友達と話し合い，互いの考えを聴き合うことができるようになると考える。また，見通しをもって学習を進めると同時に，自身の学習について振り返る時間を設けることで，この時間の目的や自分の今すべきことが分かり，主体的な話し合いにつながると考える。

＜手立て＞

【言語活動の設定】

〇児童にとって身近で，関心の高い話題や活動を設定する。

〇目的意識（何のために）・相手意識（誰に）がはっきりとする言語活動を設定する。

【単元計画の工夫】

〇ゴールとなるモデルを示し，付けたい力を明確にして学習計画を立てる。

〇毎時間学習の振り返りをする時間を確保し，自身の学習状況を把握する。

【仮説２】

タブレットを活用し，学習活動の方法を工夫することで考えが広がったり，深まったりするだろう。

学習指導要領には,「内容の取扱いについての配慮事項」として，次のとおり取り扱うこととある。

情報機器の活用に関する事項 （２）第２の指導に当たっては児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして，指導の効果を高めるよう工夫すること。

タブレットを活用することで，学習活動の幅が広がると期待できる。話の構成を考える場面では，試行錯誤しやすいメリットがある。また，自分の話し方を可視化することで，客観的に捉えたり，新たな課題を発見したりすることができると期待できる。交流の場面では，考えの共有が容易になり，表現する際には，思いや考えを効果的に伝えるための資料を簡単に用意できる良さがある。特に考えの形成や共有の場面で活用することで，交流の質の高まりを期待できると考える。

＜手立て＞

【タブレットを活用した学習活動の工夫】

〇具体的な５つの場面

①情報を収集して整理する場面

・写真を撮り，資料として活用

・インターネットを使って資料の選択

・ロイロノートを使ったアンケート調査

②自分の考えを深める場面

・ロイロノートの付箋機能を使って構成メモの作成

・写真資料を入れ替えながら，構成の検討

・思考の整理

③考えたことを表現・共有する場面

・少人数のグループで自分の考えを友達と共有する

・スライドを使って効果的な資料の提示

・共通点・相違点を見つける手立てとして活用

④知識・技能の習得を図る場面

・モデルを提示し，話し合いの仕方の検討

・スピーチを録画し，確認，修正

⑤学習の見通しをもったり，学習した内容を蓄積したりする場面

・自己評価・録画したスピーチモデルの提示

・録画した自分の発表を見ての振り返り

4　授業実践【仮説 1】　第５学年

1　単元名　伝わるように構成を考えよう～自然教室の活動報告をしよう～
（主な学習材：「町じまん」をすいせんしよう　教育出版）

2　単元の目標

・情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。　［知識及び技能］（２）イ

・話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えることができる。　［思考力，判断力，表現力等］Ａ（１）イ

・資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。　［思考力，判断力，表現力等］Ａ（１）ウ

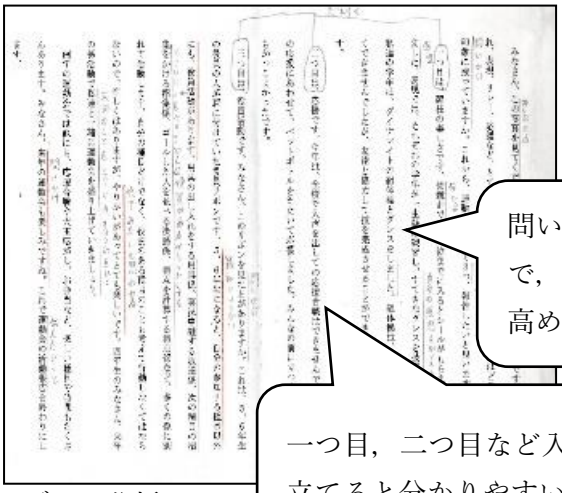
・言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力，人間性等」

3　指導の実際

【仮説１】手立て：言語活動の設定

自然教室で学んだことや活動したことを 4 年生に報告するという言語活動を設定した。単元の始めに，「4 年生に自然教室の活動報告をする」というゴールと，教師によるスピーチモデルの提示を行い，この学習でどのような学習をするのか見通しをもたせた。また，その活動をするためにはどのような力が必要かを考えてから学習計画を立て，少人数グループで学習を進めた。そして，毎時間の授業の最後に振り返りの時間を設け，自分が学んだこと，身に付けたこと，これから学習することを自覚しながら学習を進められるようにした。

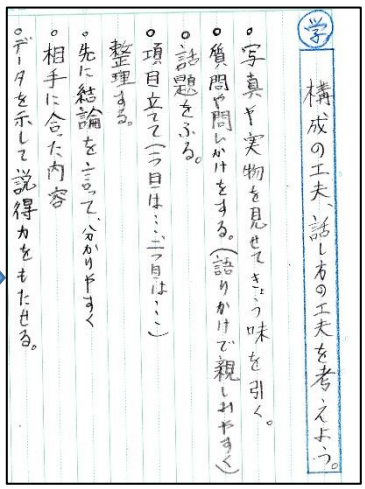
発表相手である 4 年生は教室が近く，同じフロアで普段から一緒に過ごすことが多かったため，4 年生に自然教室の活動報告をするという目的意識や相手意識をはっきりともちながら言語活動に取り組むことができた。また，4 年生に発表するという相手意識がはっきりしたことで，どのような構成，資料，発表の仕方をすればよいのかを話し合う必要があると，課題を明確にすることができた。



問いかける話し方で，聞き手の関心を高めている。

一つ目，二つ目など入れて項目立てると分かりやすい。

○モデルの分析



○必要な力の分析

【仮説１】手立て：単元計画の工夫

教師によるスピーチモデルの提示をしたことで，どのような学習をするか，見通しをもつことができた。そして，モデルの分析をしたことで，どのような力が必要か，どのような工夫をすれば分かりやすいのかをつかむことができた。児童が学習のゴールとゴールへの道筋をしっかりと捉えることができたため，学習計画を立てるときも，どのように進めたらよいか考えることができたと考えられる。

また，学習計画にもとづき，毎時間の授業の振り返りをしたことで，自分が今どの段階の学習状況にあるかを把握したり，次にどのような学習をすればよいかを考えたりする手助けとなった。学習のゴールに向かって自分で軌道修正しながら学習を進める姿が多く見られた。

		町じまんスピーチ							四年生に向けて、自然教室の活動報告		
学習内容	・四年生に自然教室の活動報告をするというゴールを知る。	・スピーチ例をもとに、構成の工夫、話し方の工夫を考える。	・推薦したいものを決め、調べる。	・構成メモを考える。	・構成メモを完成させ、スピーチ練習をする。	・町じまんスピーチをする。	・自然教室の活動報告として四年生に伝えたいことを話し合う。	・構成メモを考える。	・構成メモを完成させ、スピーチ練習をする。	・発表会をする。撮影をする。
振り返り		問いかけやわだいをふるなどの話し方の工夫をするといいということがわかりました。	すいせんしたものをスピーチの時に伝わるようにたくさんの事を調べることができた。	どういう資料を見せればせっとくりょくがでるか考えることができた。	構成メモは色々な工夫をして見やすいように作った。		どんなしりょうを使ったらわかりやすいかはんで話しあった。四年生がわかるようなスピーチを作るためにもっとがんばりたい。	このタイミングでしりょうを出すが、始めと終わりではどんなことを言うのか構成メモにかくことができた。	もっとすらすら読めるように練習したい。相手がきこえるぐらいの声の大きさで話せるようにがんばりたい。	練習のせいかを発きすることができた。最初は、きんちょうしたけど、発表しているうちに楽しくなった。

他の児童の振り返り

・調べたりないところがあり，スピーチをするときに発表しづらいから，もう少し調べてみようと思う。

・４年生が何を知りたいかを４年生の気持ちになって考えてみて，内容を決めた。話がぐーんと進んだ。

・相談して，少し違和感があるところを細かく直し，スライドもいつ誰が何をするか決めた。

・実際にやってみて直すところなどがあったので，きちんと直して４年生に分かりやすく説明したい。

・４年生がクイズで手を挙げてくれたり答えたりしてくれて楽しかった。最後の拍手が心に残った。

主体的な話し合いの様子①

A 班では，ヘルスバレーの説明をするときに，はじめは写真①のような写真を資料として使っていた。しかし，話し合いの中で，「ヘルスバレーボールの大きさが伝わりづらい」との意見が出たため，班での構成の話し合いを経て，写真②のように，普通のバレーボールの写真や，大きさを表す手書きの文字を書き加えていた。普通のバレーボールの写真を並べて大きさを表したが， 4 年生にとってわかりやすい発表という相手意識・目的意識がもてたことで，資料の提示方法について意見を出し合い，主体的に話し合う様子が見られた。

【A 班の実際の話し合いの様子】

【完成したスライドの一部】

写真①

写真②

主体的な話し合いの様子②

4 年生にとって分かりやすい資料にするため，使う資料やその順番を吟味していた。自分達の実際の写真を入れて楽しさを表現することに加え，足りない写真はインターネットで調べたものを資料に取り入れたことで，さらに伝わりやすい資料を作成することができた。写真を印刷したり，紙に絵を手書きしたりするよりも簡単に資料を作ることができたので，話し合いにより多くの時間を割くことができた。

【実際に完成したスライド】

B 班では，写真とイラストを組み合わせて資料を作成していた。はじめは時系列に沿って伝えたいことを挙げていたが，自然教室の楽しさを 4 年生にもっと感じてもらうためにと考え，スライドの順番を並べ替えていた。4 年生に楽しさを伝えたいという目的意識をしっかりもつことで，話し合いが深まった。

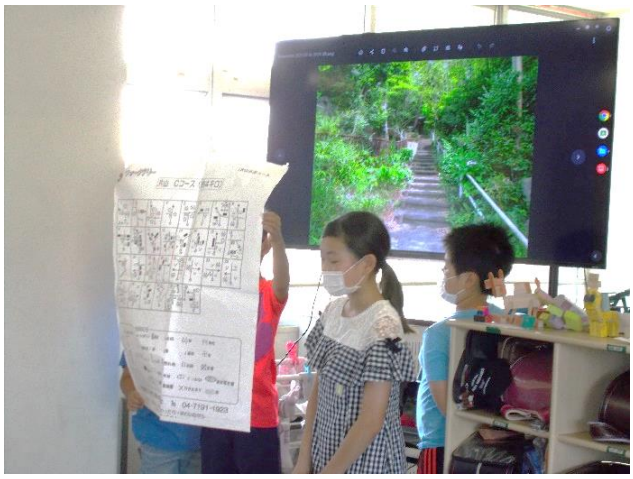
主体的な話し合いの様子③

C 班では「4 年生にも参加してもらう発表にしたら良いのではないか。」という案が出た。そこで，話をするだけではなく，4 年生にも楽しんでもらえるような工夫を話し合っていた。発表で使うスライドを作成する際には，写真やイラストの切り替わり方や効果音を取り入れたりするとよいのではないか，実際に使用した資料を見せたり，クイズを取り入れたりして 4 年生が発言する場面を作ったらよいのではないかと話し合う様子が見られた。

【実際の発表の様子】

4 年生への活動報告会では，3 教室に分かれ，スライドで作った資料を大型テレビで提示しながら発表した。スライドの資料だけでなく，ウォークラリーで使ったコマ図（拡大したもの）や実際に制作活動で作ったうちわなどの実物も併せて提示した。

タブレットのスライドを使って資料を作成したことで，写真を見せる時も，大きく写すことができたため，遠くにいる 4 年生にも資料を見やすく提示することができた。さらに，スライドを進めるときに様々な効果（興味を引くような写真やイラストの切り替わり方，効果音など）を取り入れたことで，4 年生の興味を引く発表にすることができた。



【仮説２】

この単元では，手立ての①③④の場面でタブレットの活用を行った。

①情報を収集して整理する場面

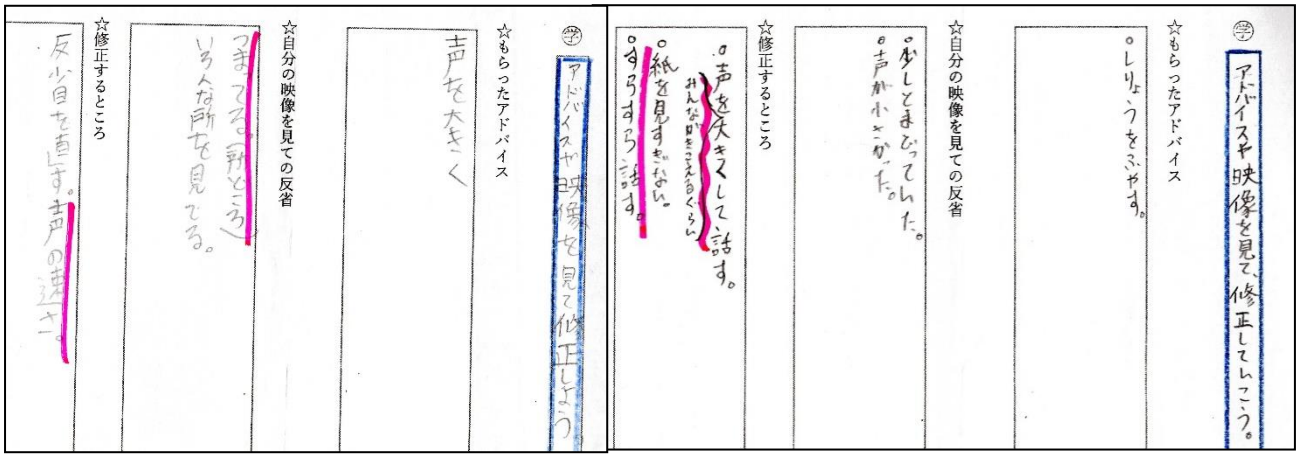
自然教室について 4 年生に活動報告する際，タブレットを使ってスライドや写真の資料を作り，写真や動画を取り入れながら発表した。自然教室で実際に撮った写真だけでなく，インターネットで調べ，スライドを作成した。

③考えたことを表現・共有する場面

グループで話し合い，スライドを入れ替えながら構成を検討した。スライドを使って資料を作成したことで，資料を実際に入れ替えながら構成の検討をすることができた上に，簡単に構成を入れ替えることができるという良さがあった。

④知識・技能の習得を図る場面

発表練習のとき，他のグループの友達に発表を見てもらい，アドバイスをもらった。声の大きさや姿勢などはもちろん，資料の見やすさ，聞き手参加型のクイズを出すタイミングや内容などに至るまで，たくさんのアドバイスをし合った。さらに，自分達の発表を動画で撮影し，その動画を見ながら修正を加えていくという活動を行った。撮影した自分達の動画を振り返り，相手に伝わる声の大きさや目線，姿勢になっているかや，提示する資料（スライド，実物等）を出すタイミングや内容は合っているかなどを検討し，どうすれば分かりやすいか，どうすればより 4 年生の興味を引く発表になるかを意識しながら修正を行った。



児童が録画した自分達の発表を見て客観的に振り返る場を設定したことで，より効果的に伝える力を伸ばすことができた。自分としてはできているつもりでも，実際に動画に撮って確認してみると，声の大きさ，表情，姿勢が不十分であったり，内容が伝わりづらかったりすることも少なくなかったため，発表内容を知らない他グループの友達からのアドバイスと，自分達の動画の 2 つの面から振り返ることで，より洗練された発表にすることができた。

③考えたことを表現・共有する場面

4 年生への活動報告会では，3 教室に分かれ，スライドで作った資料を大型テレビで提示しながら発表した。スライドの資料だけでなく，ウォークラリーで使ったコマ図（拡大したもの）や実際に作ってきたうちわなどの実物も併せて提示した。

タブレットのスライドを使って資料を作成したことで，写真を見せる時も，大きく写すことができたため，遠くにいる 4 年生にも資料を見やすく提示することができた。さらに，スライドを進めるときに様々な効果（興味を引くような写真やイラストの切り替わり方，効果音など）を取り入れたことで，4 年生の興味を引く発表にすることができた。

授業実践【仮説２】　第３学年

１　単元名　原っ子オリジナル絵文字をしょうかいしよう
（主な教材：絵文字で表そう　教育出版）

２　単元の目標

・比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。　[知識及び技能]（２）イ

・目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめることができる。　［思考力，判断力，表現力等］Ａオ

・言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。　「学びに向かう人間性等」

３　指導の実際

【仮説２】

本単元では，「グループで意見を伝え合い，話し合う活動を通し，特別教室を表す絵文字を考える」という言語活動を設定した。グループの意見を一つにまとめるという行程を取り入れることで，話し合わなければ意見が一つにまとまらないという状況にし，話し合いに必然性をもたせた。また，絵文字を通して表す物は，身近な物の中でも「特別教室」という普段目にする場所にした。見学を通してその教室の役割や特徴的な道具を調べ，記録した写真を参考にしながらロイロノートを使って自分の考えをもち，それを見せ合いながら話し合いを行うことで，考えの広がりや深まりを目指した。タブレットを活用した学習活動の工夫の手立てとして，以下の４つの場面でタブレットの活用を行った。

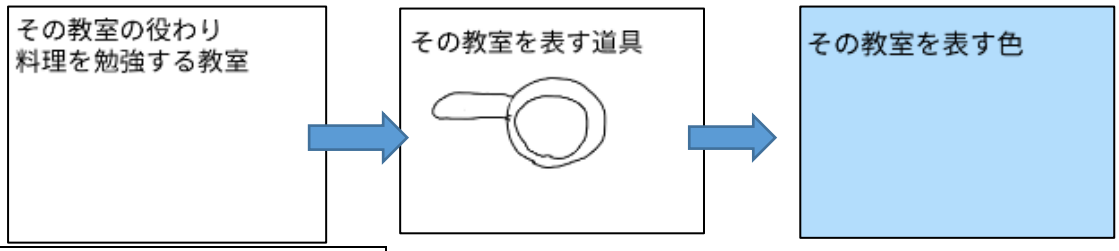
①情報を収集して整理する場面

絵文字として表す物は，身近な物の中でも「特別教室」という普段目にする場所にした。自分の担当する教室にタブレットを持って見学に行き，見学を通してその教室の役割や特徴的な道具を調べた。タブレットを使って，特別教室の特徴的な道具を何枚か写真に記録した。

②自分の考えを深める場面

自分の考えをもたせる場面では，思考の手立てとして「教室の役割→その役割を表す道具→役割を伝えるために適した背景の色」の３つのポイントに絞り，ロイロノートに１ページずつ順番に考えをまとめた。段階を追って，どんな絵文字がよいか，つながりを意識して考えることができた。つながりを意

識したことで，どうしてそのような絵文字になったのか，理由を明らかにして説明する時の資料として活用することができた。また，必要な情報を１ページずつ作成していくため，自分の考えを整理しやすく，考えをもつことを苦手に感じている児童も含め全員が自分の考えをもつことができた。考えるときには，前のページをめくり振り返りながら考えたり，写真を振り返ったりする様子が見られた。



③考えたことを表現・共有する場面

話し合いの場面では，個人で作成したロイロノートのページを互いに見せ合いながら，話し合い活動を行った。全員が自分の考えをあらかじめ作成しておくことで，話し合いの場でも自分の考えの根拠を明らかにしながら友達に伝えることができた。話し合いでは，「教室の役割」「道具」「色」の順で１つずつ話し合いを進めていった。タブレットの画面を見せながら自分の考えを伝えることで，自分の考えを理由とともに話せるようにした。その際，３つのポイントを，ページをめくりながら順を追って説明していくため，話し合いの焦点がぶれず話し合うことができた。一人一人自分の考えを見せながら伝えた後，お互いのタブレットを比較しながら似ているところや違うところを話し合う様子が見られた。グループで話し合うときには，机を風車の形にすることで，互いのタブレットを比較しやすいようにし，少人数での話し合いがしやすいようにした。（図２．３）また，絵文字で表したい道具の話し合いの場面では，教室の役割のページに戻り，最初のねらいである「簡単でその教室の役割を表す絵文字を作る」という視点からずれずに，教室の役割を根拠とし話し合いを進めることができた。また，画面を見せ合いながら話し合いを行うことで，お互いの考えの共有点や相違点に気付いて話し合い，どの考えが適切であるか，考えを一つにまとめる話し合いの手助けとなった。お互いの良さを認め合い，良いところを取り入れ，合わせた絵文字を作ることができた。

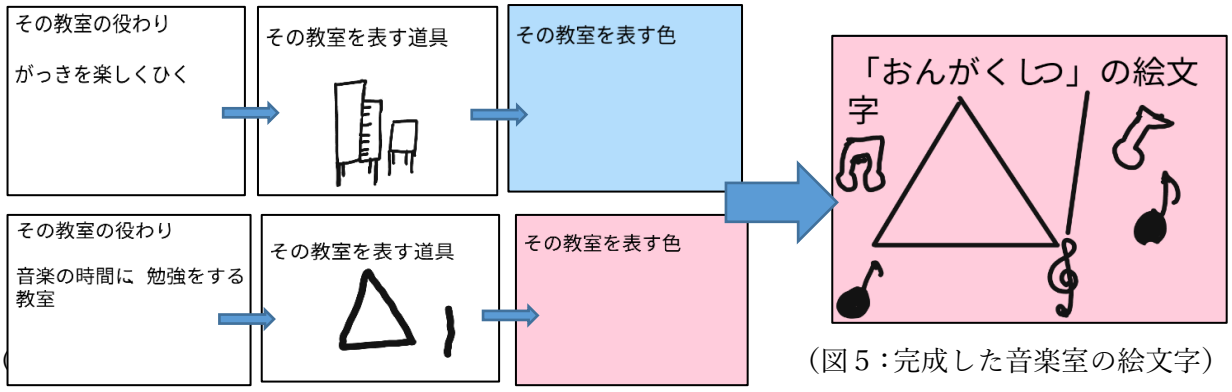
（図２：話し合いの様子）

（図３：話し合いの様子）

話し合いの深まり

～音楽室の絵文字～

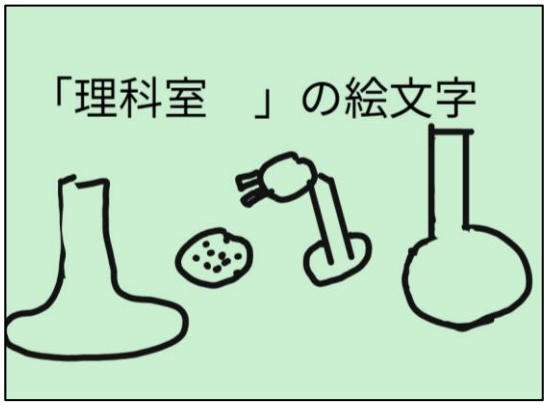
音楽室の絵文字を作る班は,「楽器を楽しくひく部屋」「音楽の時間に勉強をする部屋」などの意見が出ていた。話し合いの中で,「音楽室と言えば，教室にはない楽器が特徴的」という話になり，楽器をひく部屋であることを絵文字で表そうと考えがまとまった。その後, 道具についての話し合いでは,「ピアノ，カスタネット，トライアングル，ウッドブロック」という４人バラバラの意見が出ていた。その中で，一番音楽室らしさが伝わり，且つ簡単なものはどれかというテーマで話し合いが行われた。カスタネットやウッドブロックは，形からすぐに何かが伝わりづらく，ピアノは描くのが複雑という理由で，最も簡単で誰でも知っているトライアングルを絵文字にしようと話し合いがまとまった。また，背景の色について話し合った際には，４人中３人が水色，１人がピンクを選択していた。話し合いの中で,「音楽の楽しさを表すには明るい色のピンクの方が良いのではないか」という意見から，ピンク色に決定した。最後に,「楽器を楽しくひく部屋」という教室の役割に立ち返り，楽しさを表すための音譜を付け加えた。ロイロノートのページをめくり，教室の役割を確認しながら話し合うことで話し合いに深まりが見られた。



（図５：完成した音楽室の絵文字）

～理科室の話し合い～

教室の役割の話し合いでは，４人とも「実験を行う教室」という意見で一致していた。しかし，道具の場面で，３人がフラスコ，１人が顕微鏡を表していた。どの道具で表すかの話し合いでは，顕微鏡を選んだ児童が「顕微鏡も細菌を見るときや実験の時に使うから，実験する教室を表す道具の１つ」と役割と関連付けながら発言していた。同じ役割を表せると分かったことで，周囲の児童も納得し，完成した絵文字には，フラスコと顕微鏡の両方が描かれた。（図６）ロイロノートのページをめくりながら，教室の役割と関連付け，自分の考えを根拠とともに伝えることができ，周囲もその考えを受け止め話し合いが深まった。



（図６：理科室の絵文字）

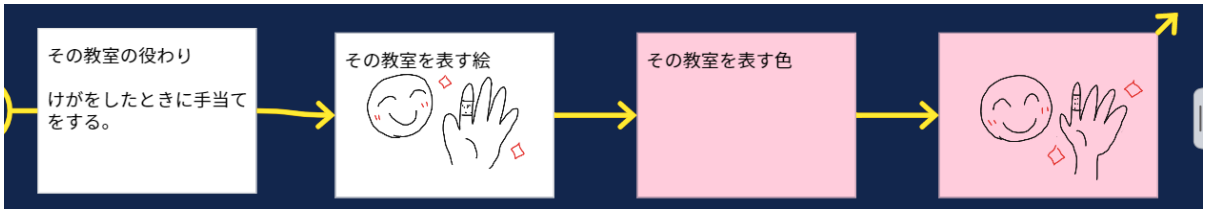
～体育館の絵文字～

この班は「跳び箱」「バスケットゴール」の２つに意見が分かれた。話し合いの中で最初はどちらにするかの話し合いをしていたが，どちらも「外ではできない運動をする教室」という教室の役割を表すことができると気付き，合体させようという案に至った。また，「体育は楽しいという思いを伝えたい」という意見から，スマイルマークを入れ，思いのこもった絵文字を作成することができた。

①個人で考えた役割　②個人で考えた道具　③グループで話し合いできた絵文字

⑤学習の見通しをもったり・学習した内容を蓄積したりする場面

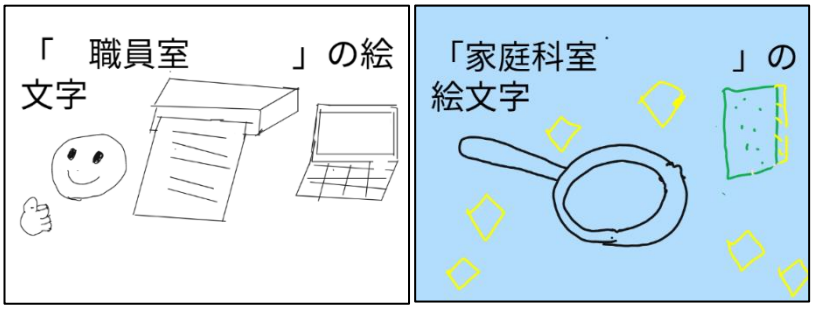
学習の見通しをもつため，モデルの提示として教師がロイロノートで保健室の絵文字を提示し，クラスで共有する場面のスピーチを行った。大きな画面で写し，これから作るものやゴールを知ったことで，見通しをもつことができた。さらに，目的が明確化できたことで，活動への意欲や主体的な話し合いにつながった。（図７）



（図７：教師の提示した絵文字の発表モデル）

最後の学習した内容を蓄積する場面では，各グループで作成した絵文字を，どういう役割を表しているのか，根拠を明らかにしながらクラスで発表会を行った。個人で考えたときよりも，グループで話し合ったことで友達と良い部分を合わせたり，「簡単でその教室の役割を表す絵文字を作る」という目的を意識したりした絵文字になっていた。タブレットを活用したことで，目的からずれることがなく，話し合いの内容の広がり・深まりが感じられた。

＜その他の完成した絵文字の一部＞



③考えたことを表現・共有する場面

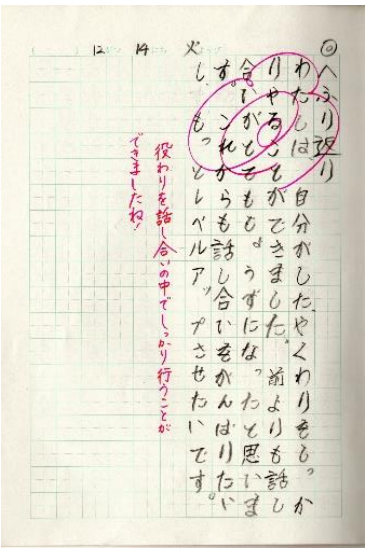
どのような理由で絵文字が完成したのか，話し合いの流れに沿って，発表する活動を行った。完成した絵文字をロイロノートを通して教師に提出し，拡大して考えを簡単に共有することができた。

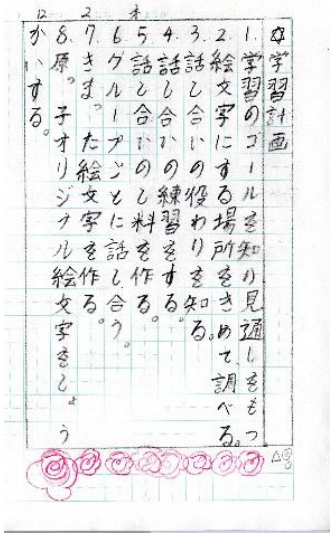
【仮説 1】手立て：言語活動の設定

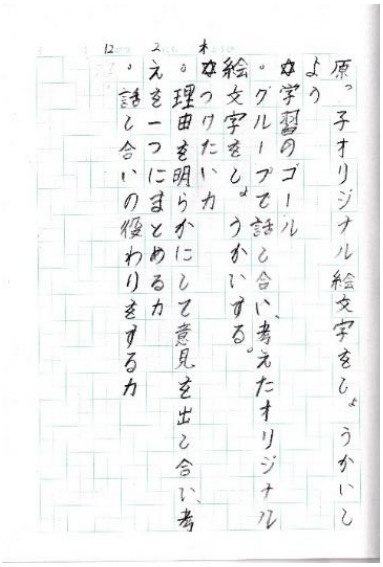
本単元では，「グループで意見を伝え合い，話し合う活動を通し，特別教室を表す絵文字を考える」という言語活動を設定した。グループの意見を 1 つにまとめるという行程を取り入れることで，話し合わなければ意見が一つにまとまらないという状況にし，話し合いに必然性をもたせた。また，絵文字として表す物は，身近な物の中でも「特別教室」という普段目にする場所にし，見学を通してその教室の役割や特徴的な道具を調べ，写真に記録したことで，さらに関心が高まるようにした。さらに，単元名を「原っ子オリジナル絵文字を紹介しよう」とし，「自分たちの学校のために自分たちだけの絵文字を作るんだ」という目的意識が高まるようにした。

「早く作りたい」という声も聞こえ，進んで話し合いに参加し自分の言葉で考えを伝えるなど主体的に取り組むことができた。 担当する教室のどの役割を伝える絵文字にするか，一人一人が自分の考えを伝え，すりあわせようとする児童の姿が見られた。

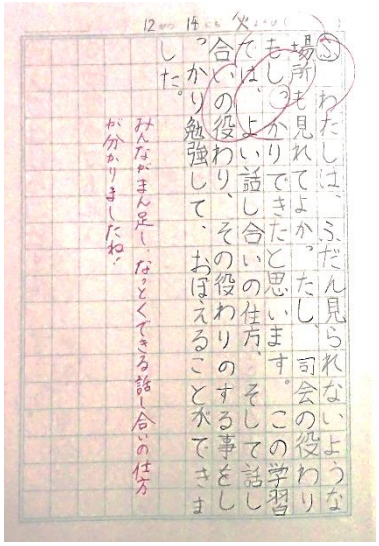
【仮説１】手立て：単元計画の工夫

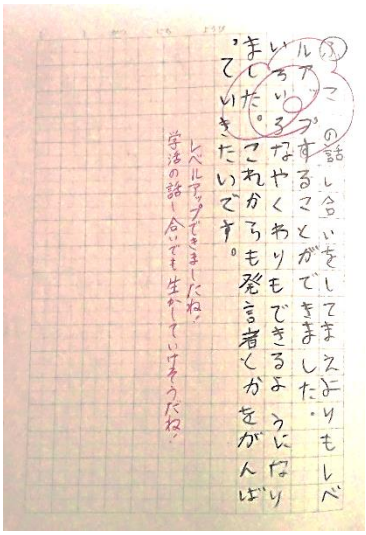


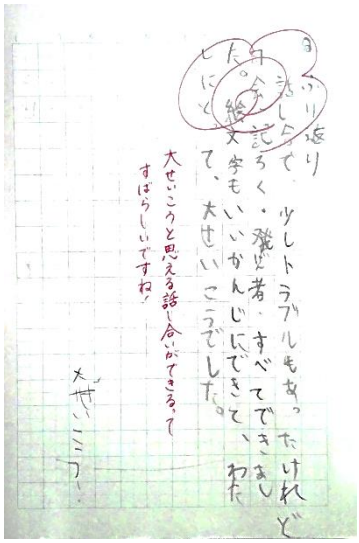




○他の児童の振り返り





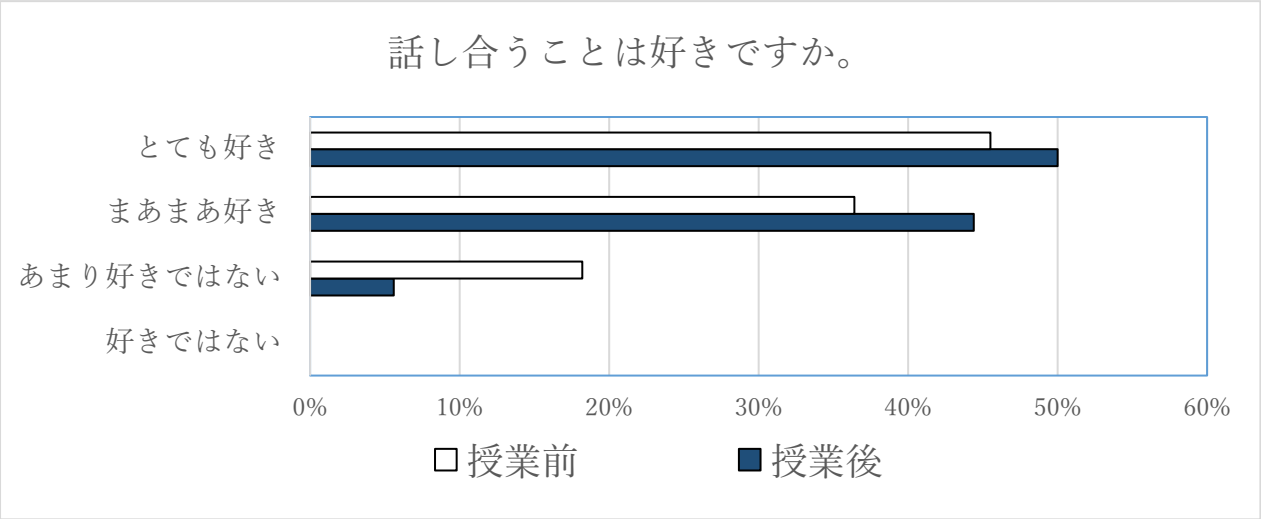


単元の始めに，「グループで話し合い，考えたオリジナル絵文字を紹介する」という単元のゴールと，教師の考えた絵文字を提示した。その後，この単元でつけたい力を教師から提示し，ゴールに向けてどのように学習を進めていけば良いか，話し合って学習計画を立てた。その後，学習計画に自己評価を書き加えながら学習を進め，見通しをもって学習に取り組めるようにした。

教師のモデルを示しゴールを明らかにしたことで，自分たちが目指す物がはっきりし，意欲的に取り組むことができた。また，学習計画を立てたことで見通しをもって学習に取り組むことができ，今日すべき学習や本時でつける力を児童が理解しながら学習に取り組むことができた。自己評価を通して学習計画に記号を毎時間記入させていたところ，日に日に花丸が大きくなっていく子が多く，達成感を感じながら学習に取り組むことができた。

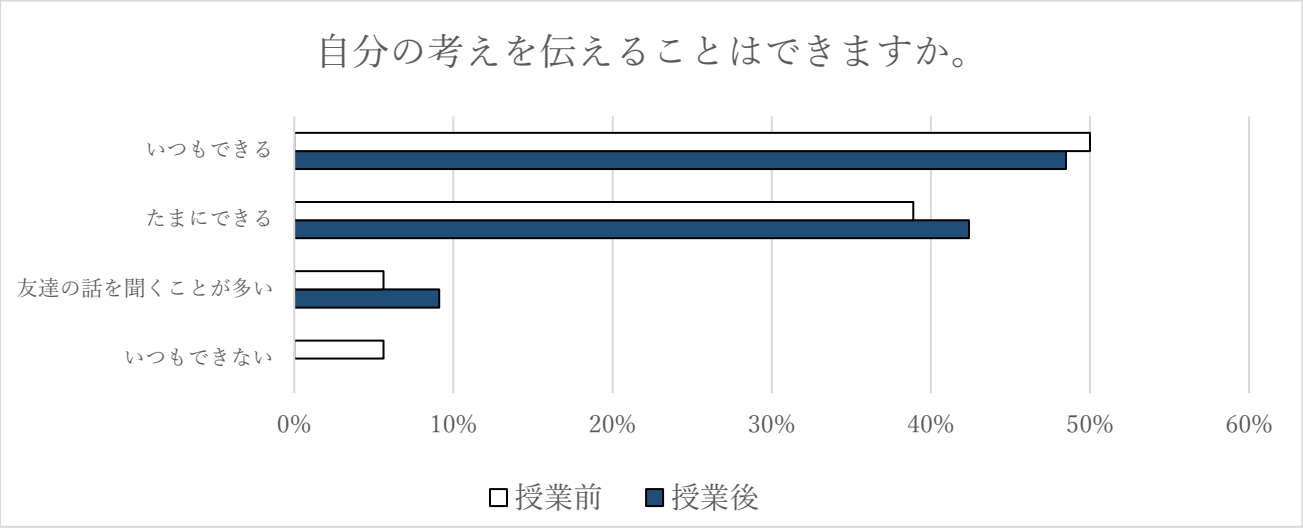
5　児童の変容

授業の前後に，情意面に関するアンケートをとったところ，以下のような結果となった。



どうしてそう思いますか

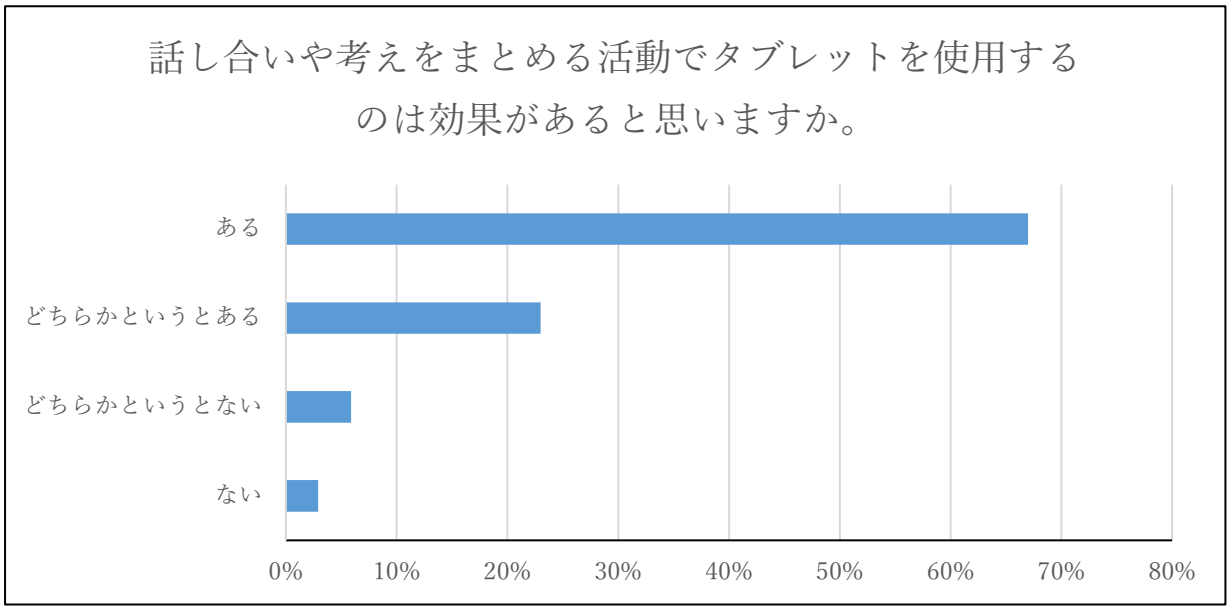
授業前	授業後
・楽しいから ・みんなで意見を合わせて良い意見が出せるから ・自分の意見を伝えるのが苦手だから ・自分から話すと、嫌な感じがするから ・発表することが思い付かないから ・恥ずかしいから	・楽しいから ・みんなばらばらの意見が出たら考えられるから ・友だちの考えを聞けるから ・自分たちの考えを発表出来るから ・自分の考えを、知ってもらえるから ・グループみんなで伝え合うと楽しくなるから。それと新しい発見や、自分の思いつかなかった考えをたくさん聞けるし、どういうことかわからない問題でも話し合えばわかるから



どうしてそう思いますか

授業前	授業後
・間違っていそうで怖いから ・恥ずかしいから ・何を言えばいいか分からないから ・自分の意見をはっきり言えるから ・友達が最後まで聞いてくれるから	・友達がうなずきながら聞いてくれると嬉しいから ・緊張するけど分かってくれるから ・いろいろな意見が合わさると楽しいから ・話し合うと一人の時よりももっとよくなっていくから ・友達の意見を聞く方が好きだから

また，タブレットを使用した学習に関するアンケートをとったところ，以下のような結果となった。



それはどうしてですか

・自分の考えと違うときに，相手の考えを見ると効果があると感じたから

・スライドを使って伝えると，自分の主張を強調できるから

＜考察＞

「話し合うことが好きか」を問うアンケートでは，「あまり好きではない」の割合が減り，「とても好き」「まあまあ好き」の割合が増えていることが分かる。理由としては，授業前に「恥ずかしい　発表が苦手」と感じている児童が多かったが，１人１人が目的をもった話し合いを経験し，自分の考えを受け入れてもらうことの楽しさや，友達の意見を聞き考えの深まりを感じる児童が増えたことが考えられる。自分の考えを受け入れてもらった経験と話し合いの質の向上が，話し合いに対する抵抗感が薄れた要因と考える。

また，「自分の考えを伝えることができるか」を問うアンケートでは，いつもできないと回答していた児童が０％になり，少なくとも自分の考えを伝えようと変わったことが分かる。理由としては，自分の考えをもち話し合いに参加できたことが大きく影響していると考えられる。さらに，話す機会を確保

したことに加え（少人数での話し合い），話し合い方の指導（話し合いの言葉，話し方・聞き方あいうえお）をしたことで，話すことへの抵抗感が薄れ，以前よりも自信をもって話すことができる児童が増えてきたと考えられる。また，共感的な聞き方，様々な意見を受け入れる温かい雰囲気作りを進めたことにより，話すことが苦手な児童でも，失敗を恐れずに話し合いに参加できたと考えられる。

タブレットについてのアンケートでは，話し合いや考えをまとめる活動でタブレットを使用するのは効果があると感じている児童が比較的多くいた。授業を行う際には，どのような目的でタブレットを使うのか教師自身が明確な意図をもち，児童にも目的を伝えながら使用していくことが大切であると考える。

6　成果と課題

【仮説１】

児童の関心や経験を踏まえた言語活動を設定し，単元計画を工夫することで，主体的に話し合うようになるだろう。

○児童の関心が高まるような話題や活動を設定することで意欲をもつことができた。
○目的意識や相手意識が明確になったことで，主体的に話し合い，聞き手に分かりやすい表現の工夫を考えることができた。
●主体的な話し合いに結び付く話題や活動を設定することが難しかった。
●聞き手にとって必要感のある話題や活動を設定することが必要だった。

【仮説２】

タブレットを活用し，学習活動の方法を工夫することで考えが広がり，深まるだろう。

○資料を作成しながら内容や構成などをその都度修正できるため，思考の整理がしやすくなった。
○自分の思いや考えを効果的に伝えるための資料を簡単に作成することができ，試行錯誤しやすくなったことで相手により分かりやすく伝えるための工夫を考えることができた。
○資料を見ながら話し合うことで，話し合う内容を焦点化することができ，話し合いによって考えが広がった。
○交流の場では，考えの共有が容易になった。
●個々のタブレットの活用力に差があり，個々に応じた支援に対応できなかったため，考えの深まりに差が見られた。
●タブレットは様々な場面で効果がある反面，教師が目的を理解していないと考えの広がりにつながらない場面もあるため，どの場面でどのように使わせるか教師の見極めが必要である。